

2 新型コロナウイルス感染症について

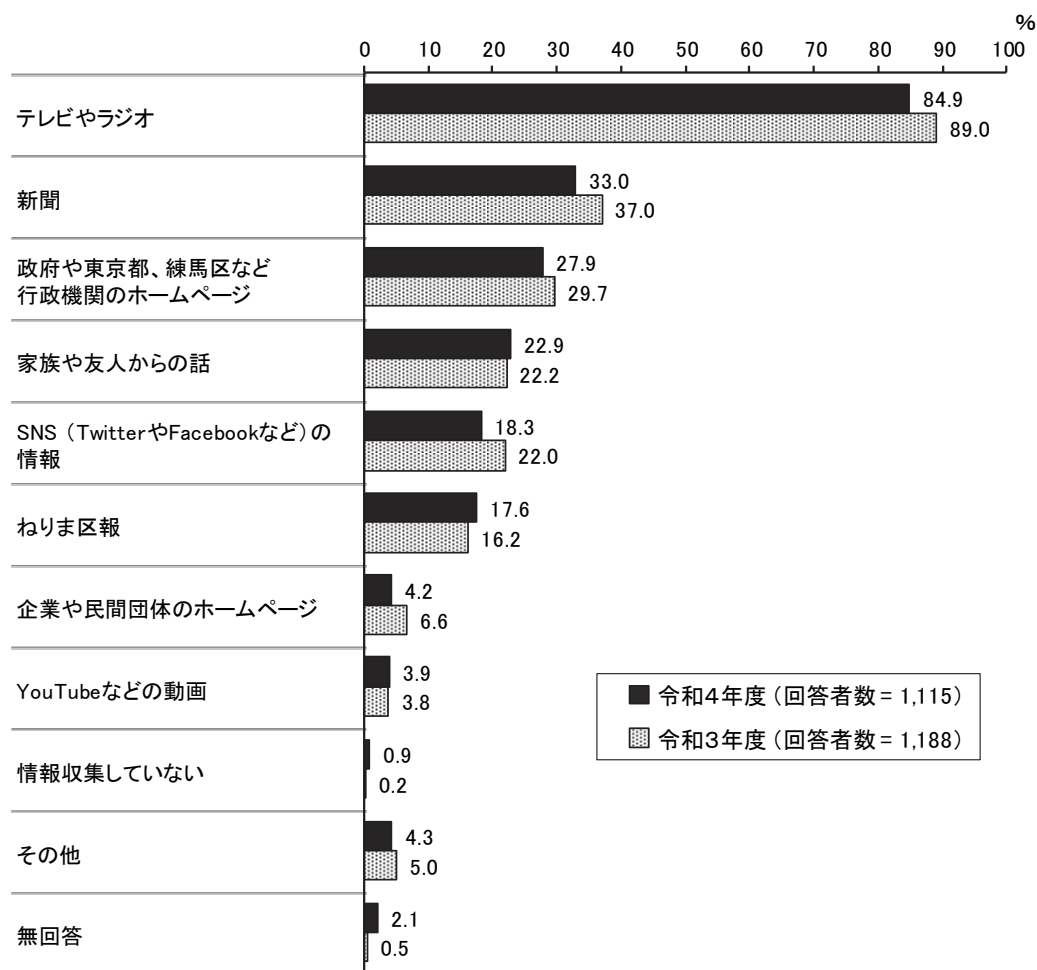
(1) 新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手経路

◇「テレビやラジオ」が8割半ば

問28 あなたは、新型コロナウイルス感染症に関する情報を何から入手していますか。

(○は3つまで)

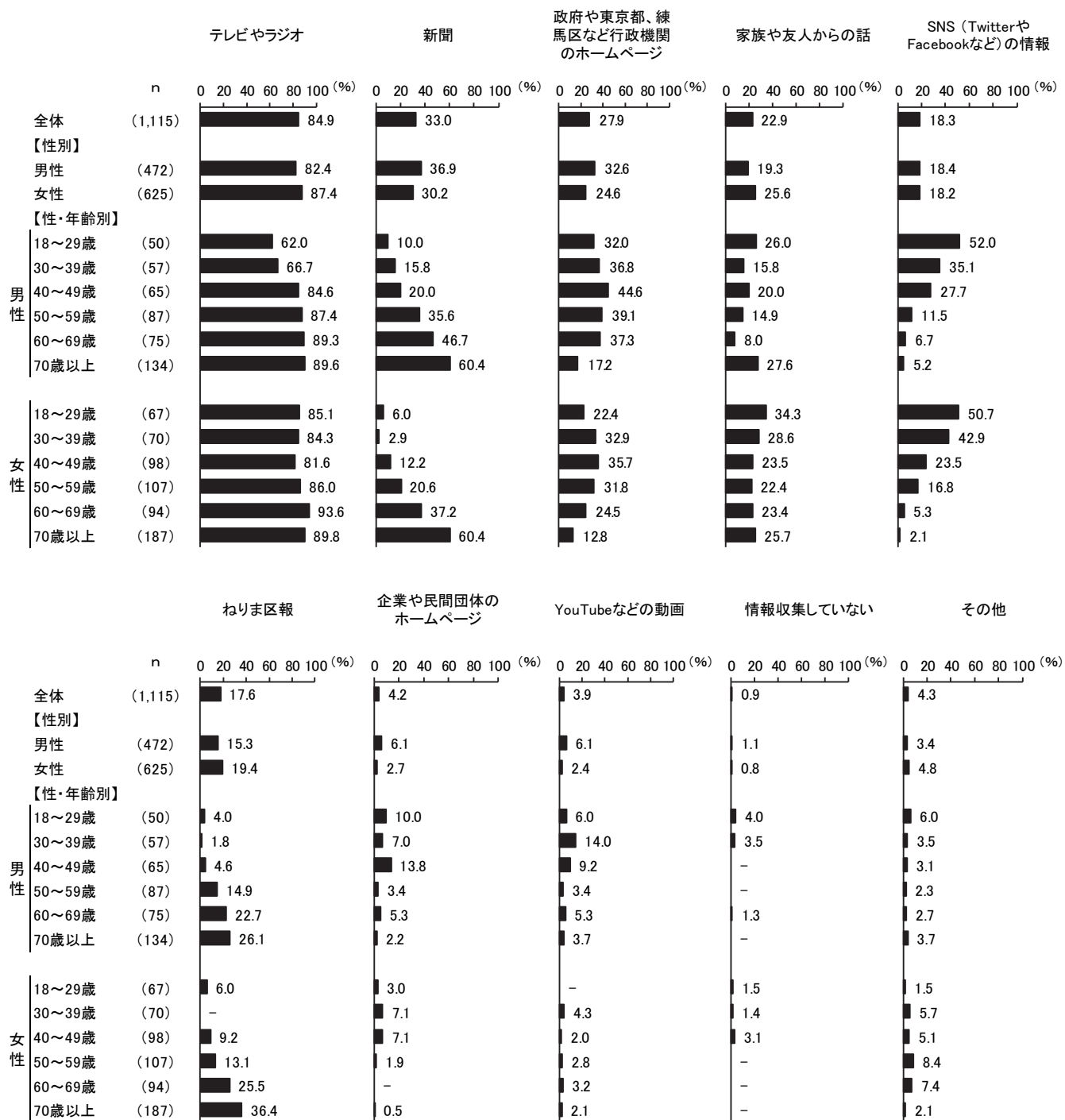
図2-1-1 新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手経路



新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手経路を聞いたところ、「テレビやラジオ」(84.9%)が8割半ばで最も多く、次いで「新聞」(33.0%)、「政府や東京都、練馬区など行政機関のホームページ」(27.9%)、「家族や友人からの話」(22.9%)などの順となっている。

過去の調査(令和3年度)と比較すると、大きな変化はみられない。(図2-1-1)

図2-1-2 新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手経路—性別、性・年齢別

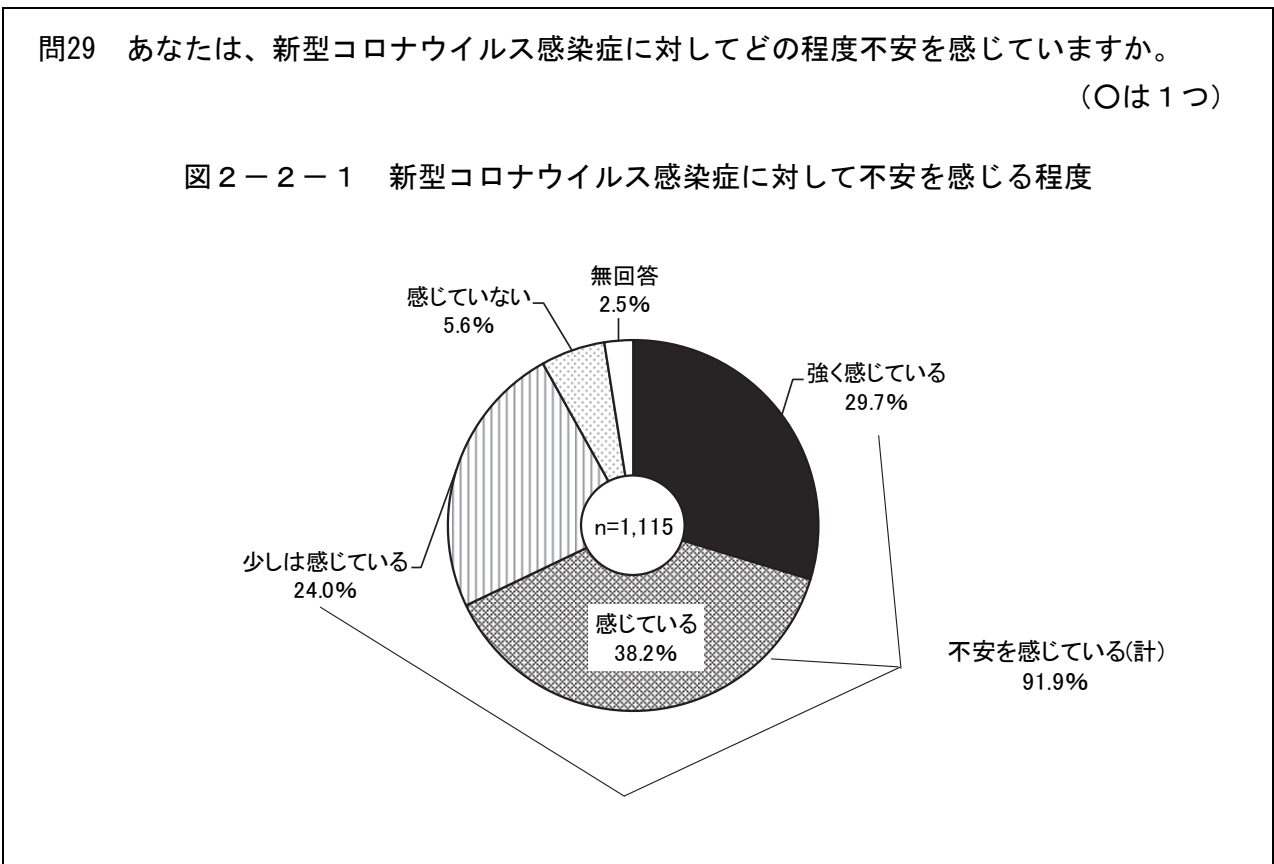


性別にみると、女性の方が男性より「家族や友人からの話」で6.3ポイント、「テレビやラジオ」で5.0ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性の方が女性より「政府や東京都、練馬区など行政機関のホームページ」で8.0ポイント、「新聞」で6.7ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、「テレビやラジオ」は女性60~69歳で9割を超えて多くなっている。「新聞」は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が高くなっており、男女ともに70歳以上で6割となっている。「SNS (TwitterやFacebookなど) の情報」は年代が下がるほど割合が高くなっており、男性18~29歳、女性18~29歳で5割台となっている。(図2-1-2)

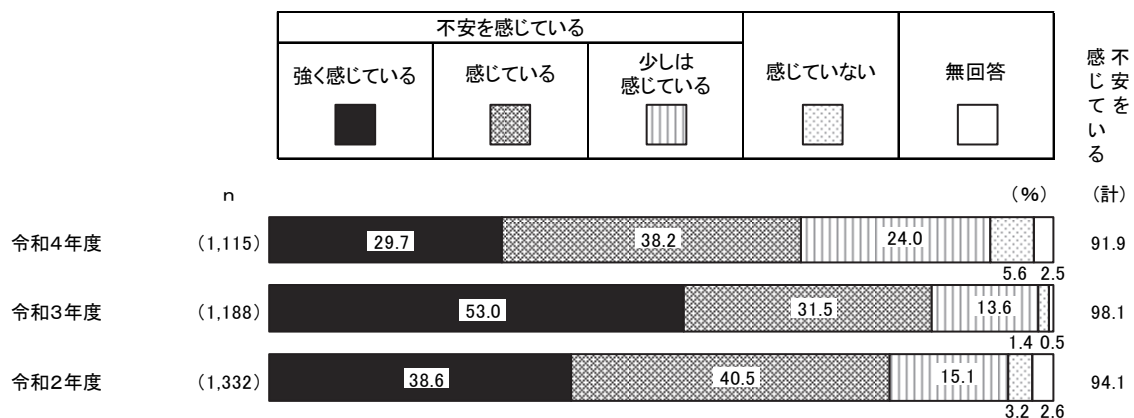
(2) 新型コロナウイルス感染症に対して不安を感じる程度

◇『不安を感じている』が9割を超える



新型コロナウイルス感染症に対してどの程度不安を感じているか聞いたところ、「強く感じている」(29.7%)、「感じている」(38.2%)、「少しは感じている」(24.0%)の3つを合わせた『不安を感じている』(91.9%)が9割を超えている。一方、「感じていない」(5.6%)はわずかとなっている。(図2-2-1)

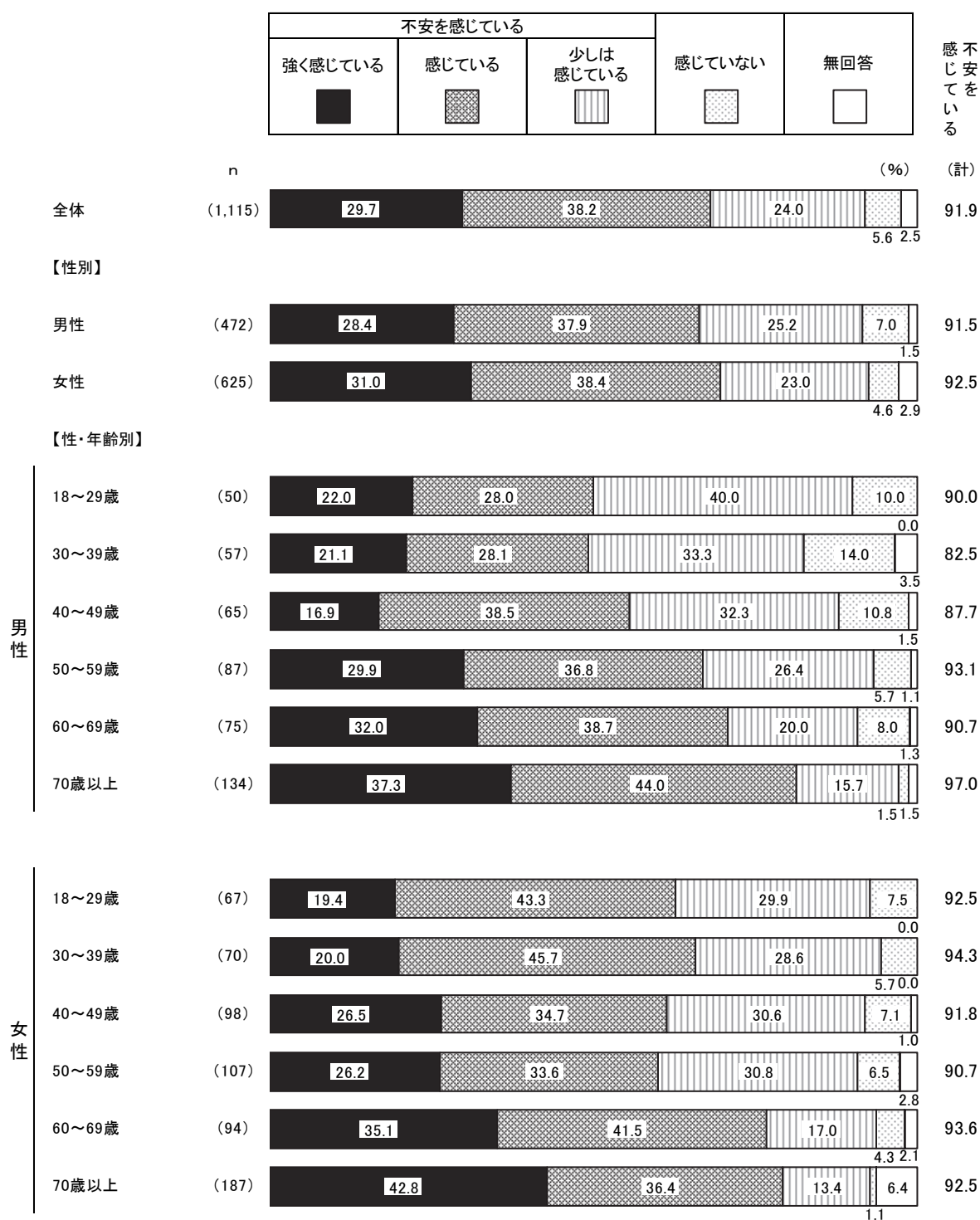
図2-2-2 新型コロナウイルス感染症に対して不安を感じる程度—過年度比較



過去の調査と比較すると、「強く感じている」は前回調査(令和3年度)より23.3ポイント減少している。『不安を感じている』は前回調査(令和3年度)より6.2ポイント減少している。

(図2-2-2)

図 2-2-3 新型コロナウイルス感染症に対して不安を感じる程度—性別、性・年齢別



性別にみると、大きな差異はみられない。

性・年齢別にみると、「強く感じている」は女性70歳以上で4割を超えて多くなっている。『不安を感じている』は男性30~39歳、男性40~49歳を除き、すべての年代で9割以上となっている。

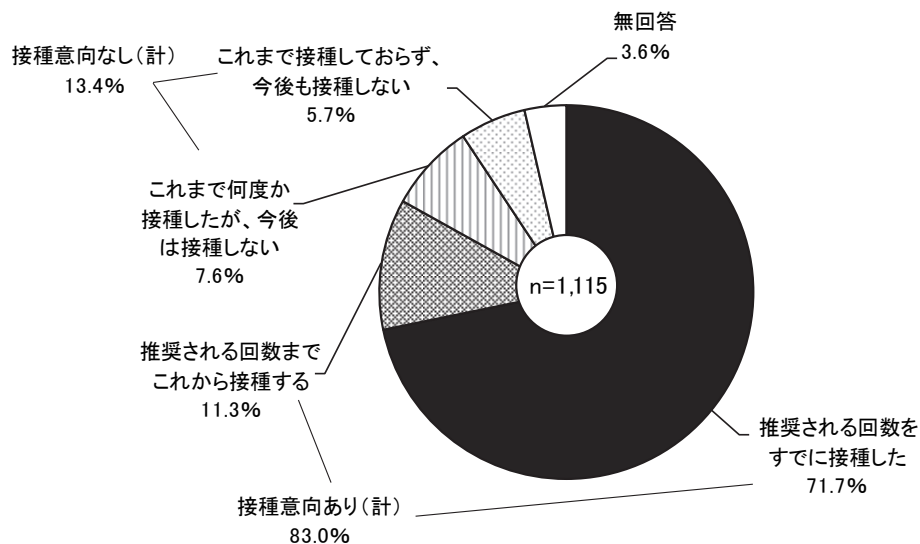
(図 2-2-3)

(3) 新型コロナウイルスワクチンの接種状況・今後の接種意向

◇『接種意向あり』が8割を超える

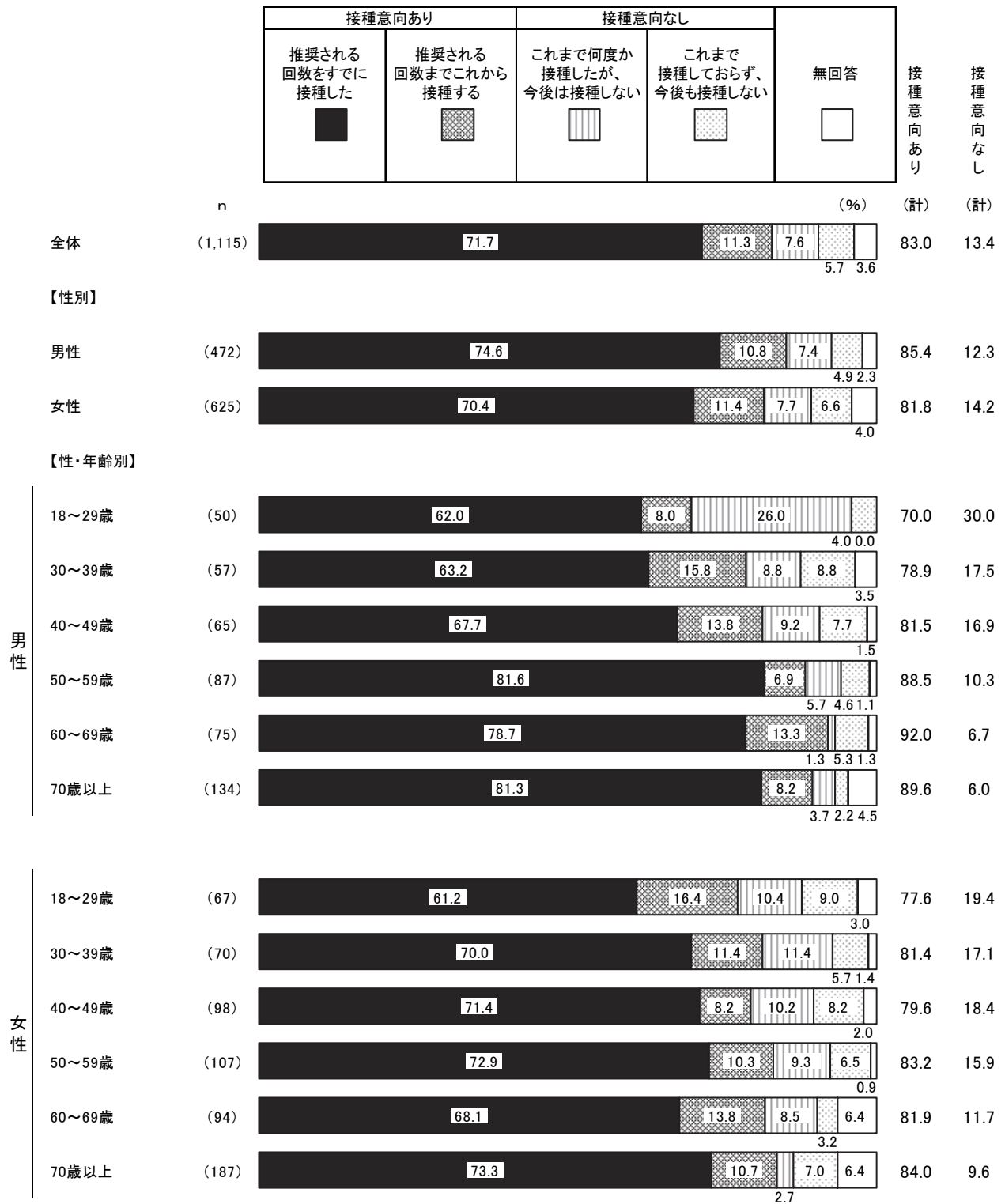
問30 新型コロナウイルス感染症のワクチンについて、あなたの接種状況または今後の接種の意向として最もあてはまるものをお選びください。(〇は1つ)

図2-3-1 新型コロナウイルスワクチンの接種状況・今後の接種意向



接種状況と今後の接種の意向を聞いたところ、「推奨される回数をすでに接種した」(71.7%)と「推奨される回数までこれから接種する」(11.3%)を合わせた『接種意向あり』(83.0%)が8割を超えている。一方、「これまで何度か接種したが、今後は接種しない」(7.6%)と「これまで接種しておらず、今後も接種しない」(5.7%)を合わせた『接種意向なし』(13.4%)が1割を超えている。(図2-3-1)

図2-3-2 新型コロナウイルスワクチンの接種状況・今後の接種意向－性別、性・年齢別



性別にみると、『接種意向あり』は男性の方が女性より3.6ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「すでに接種した」は男女ともにおおむね年代が上がるほど割合が高くなっており、男性50～59歳、男性70歳以上で8割を超えている。「これまで何度か接種したが、今後は接種しない」は男性18～29歳で2割半ばと多くなっている。(図2-3-2)

(3-1) 新型コロナウイルスワクチンを接種したいと思わない理由

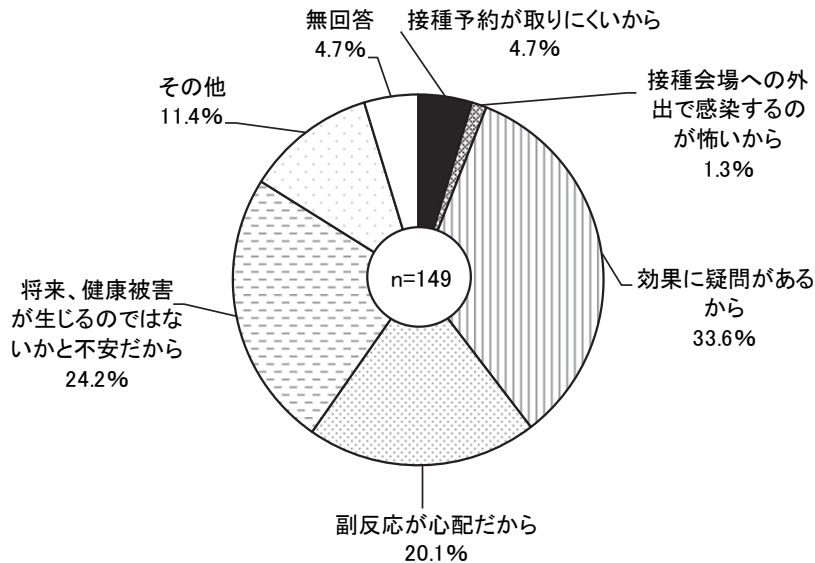
◇「効果に疑問があるから」が3割を超える

【問30で「これまで何度か接種したが、今後は接種しない」または「これまで接種しておらず、今後も接種しない」と答えた方へ】

問30-1 新型コロナウイルスワクチンを接種したいと思わない主な理由は何ですか。

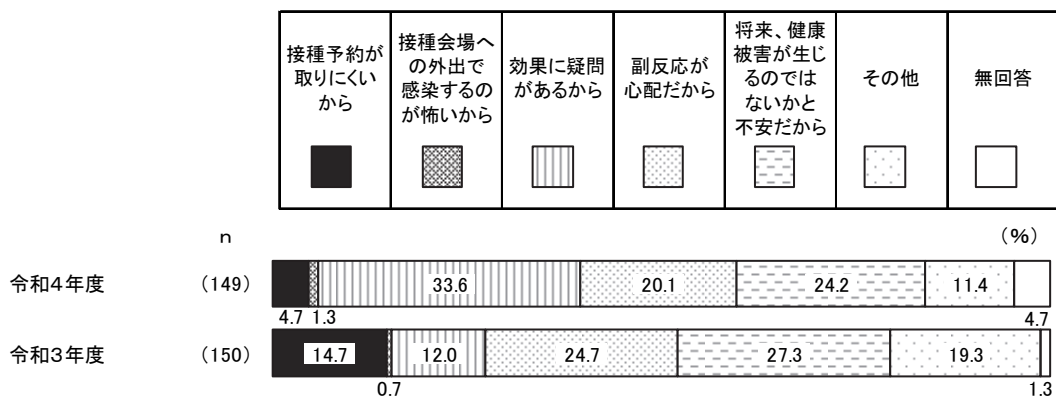
(〇は1つ)

図2-3-3 新型コロナウイルスワクチンを接種したいと思わない理由



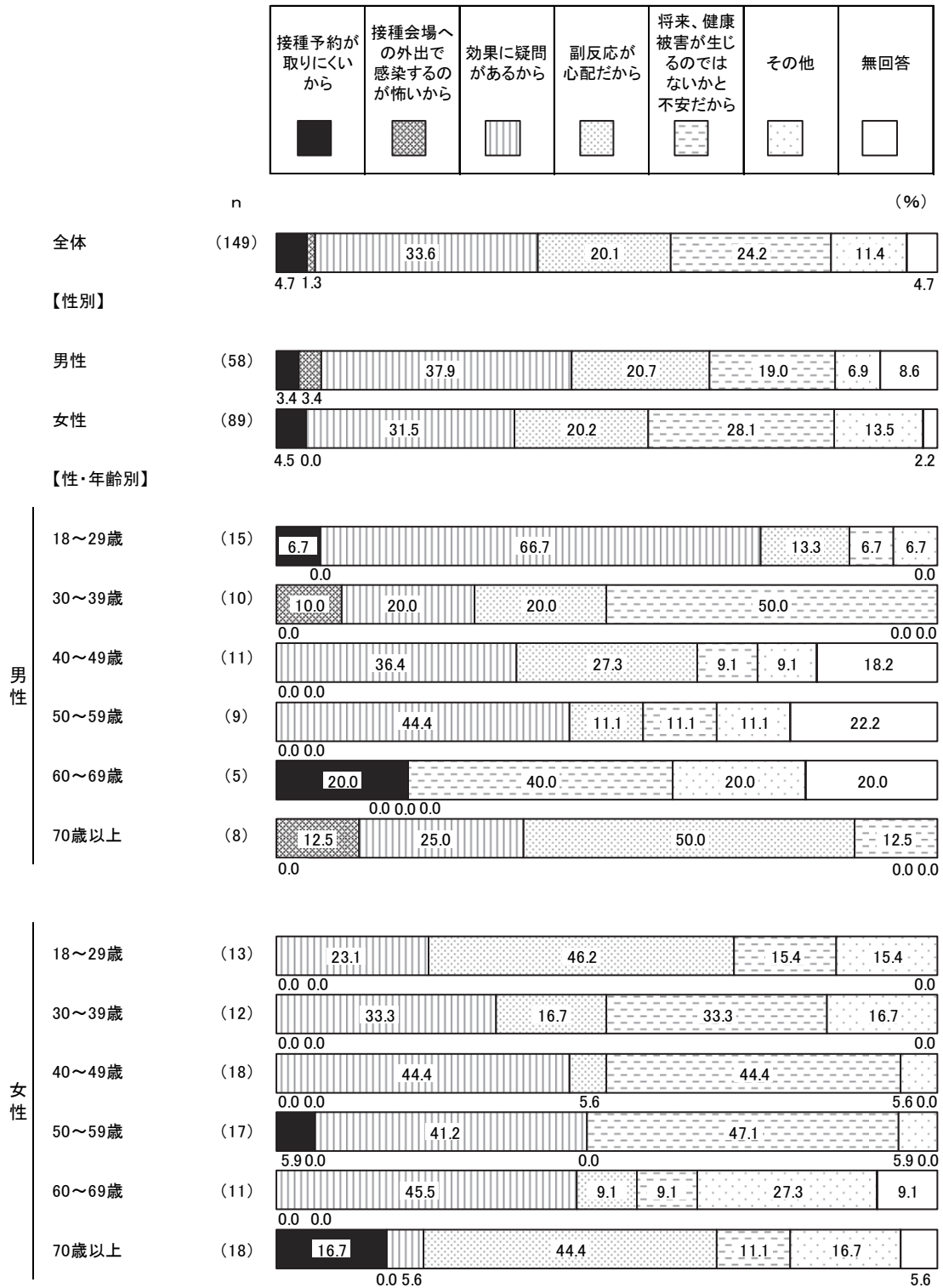
新型コロナウイルスワクチンの接種について「これまで何度か接種したが、今後は接種しない」または「これまで接種しておらず、今後も接種しない」と答えた方(149人)に、接種したいと思わない理由を聞いたところ、「効果に疑問があるから」(33.6%)が3割を超えて最も多く、次いで「将来、健康被害が生じるのではないかと不安だから」(24.2%)、「副反応が心配だから」(20.1%)などの順となっている。(図2-3-3)

図2-3-4 新型コロナウイルスワクチンを接種したいと思わない理由—過年度比較



過去の調査(令和3年度)と比較すると、「効果に疑問があるから」は21.6ポイント高くなっている。一方、「接種予約が取りにくいから」は10.0ポイント、「副反応が心配だから」は4.6ポイント減少している。(図2-3-4)

図2-3-5 新型コロナウイルスワクチンを接種したいと思わない理由—性別、性・年齢別



性別にみると、「将来、健康被害が生じるのではないかと不安だから」は女性の方が男性より9.1ポイント高くなっている。一方、「効果に疑問があるから」は男性の方が女性より6.4ポイント高くなっている。

性・年齢別は、基数が少ないため参考に図示する。(図2-3-5)

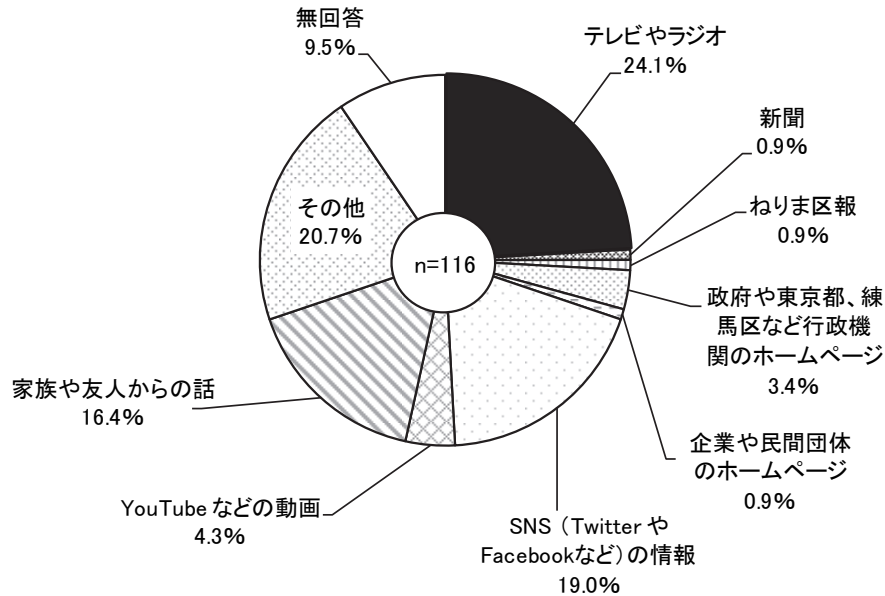
(3-2) 新型コロナウイルスワクチン接種について疑問や不安を抱くようになった要因

◇「テレビやラジオ」が2割半ば

【問30-1で「効果に疑問があるから」、「副反応が心配だから」、「将来、健康被害が生じるのではないかと不安だから」と答えた方へ】

問30-2 あなたは、どのような情報に接して、疑問や不安を抱くようになりましたか。最も影響を与えたものをお選びください。(〇は1つ)

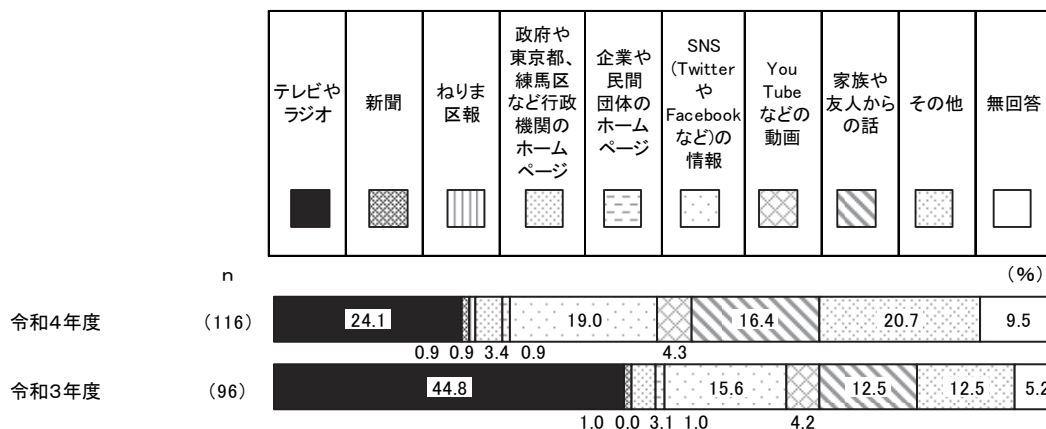
図2-3-6 新型コロナウイルスワクチン接種について疑問や不安を抱くようになった要因



新型コロナウイルスワクチンの接種について「効果に疑問があるから」、「副反応が心配だから」、「将来、健康被害が生じるのではないかと不安だから」と答えた方(116人)に、どのような情報に接して、疑問や不安を抱くようになったか聞いたところ、「テレビやラジオ」(24.1%)が2割半ばで最も多く、次いで「SNS (TwitterやFacebookなど)の情報」(19.0%)、「家族や友人からの話」(16.4%)などの順となっている。(図2-3-6)

図2-3-7

新型コロナウイルスワクチン接種について疑問や不安を抱くようになった要因一過年度比較

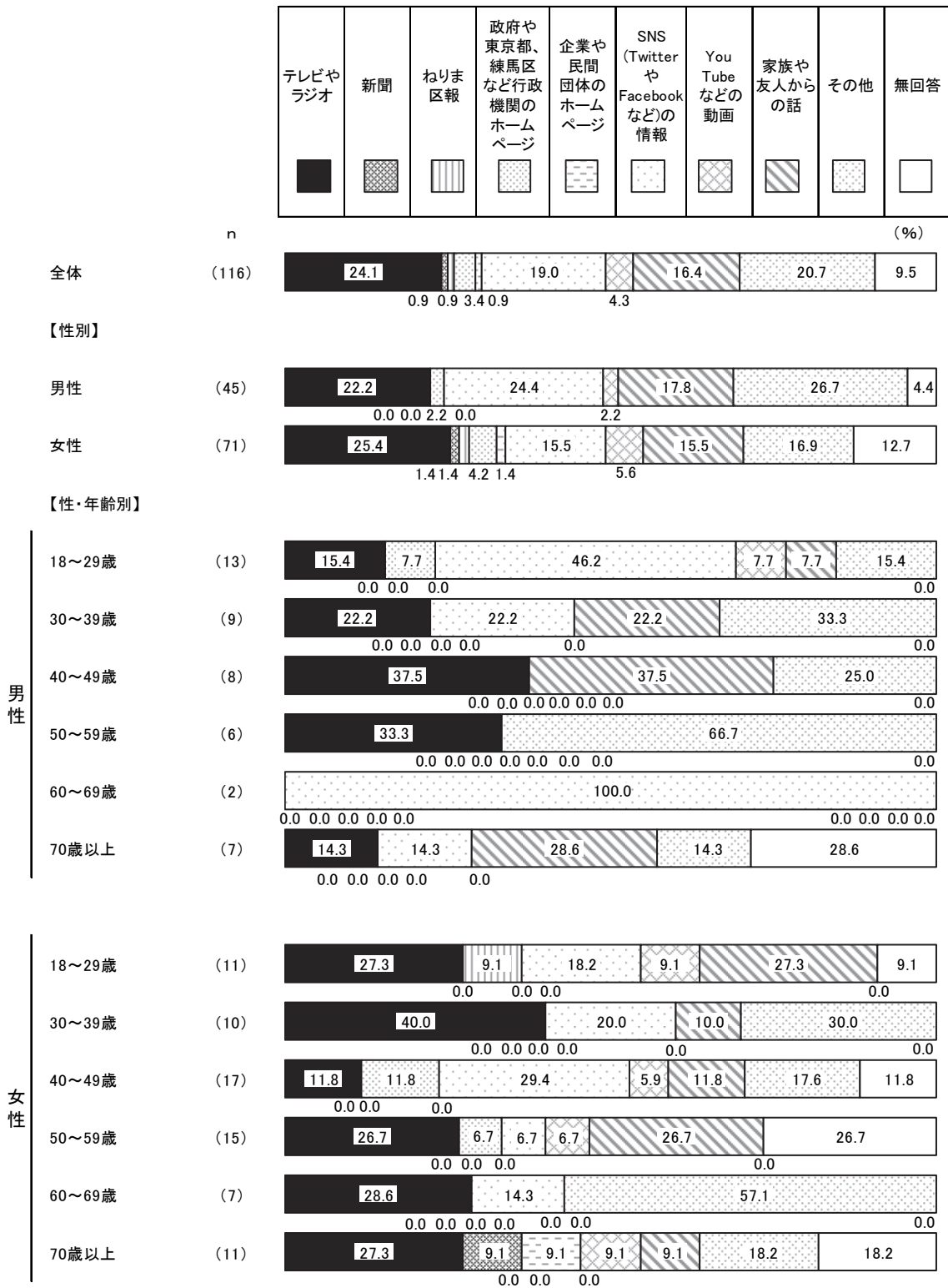


過去の調査(令和3年度)と比較すると、「テレビやラジオ」は20.7ポイント減少している。

(図2-3-7)

図2-3-8 新型コロナウイルスワクチン接種について疑問や不安を抱くようになった要因

—性別、性・年齢別

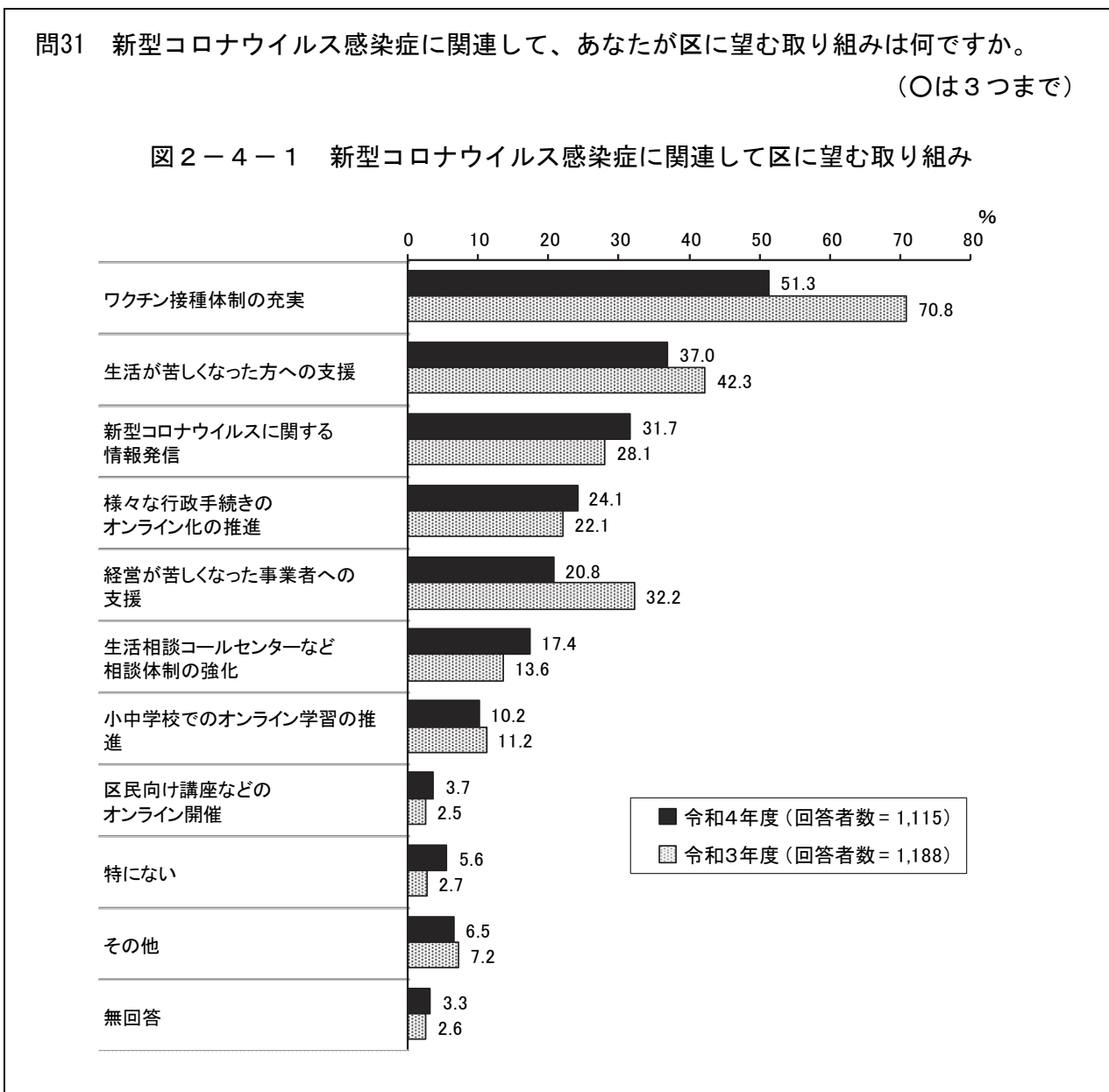


性別にみると、「SNS (TwitterやFacebookなど) の情報」は男性の方が女性より8.9ポイント高くなっている。

性・年齢別は基数が少ないため参考に図示する。(図2-3-8)

(4) 新型コロナウイルス感染症に関連して区に望む取り組み

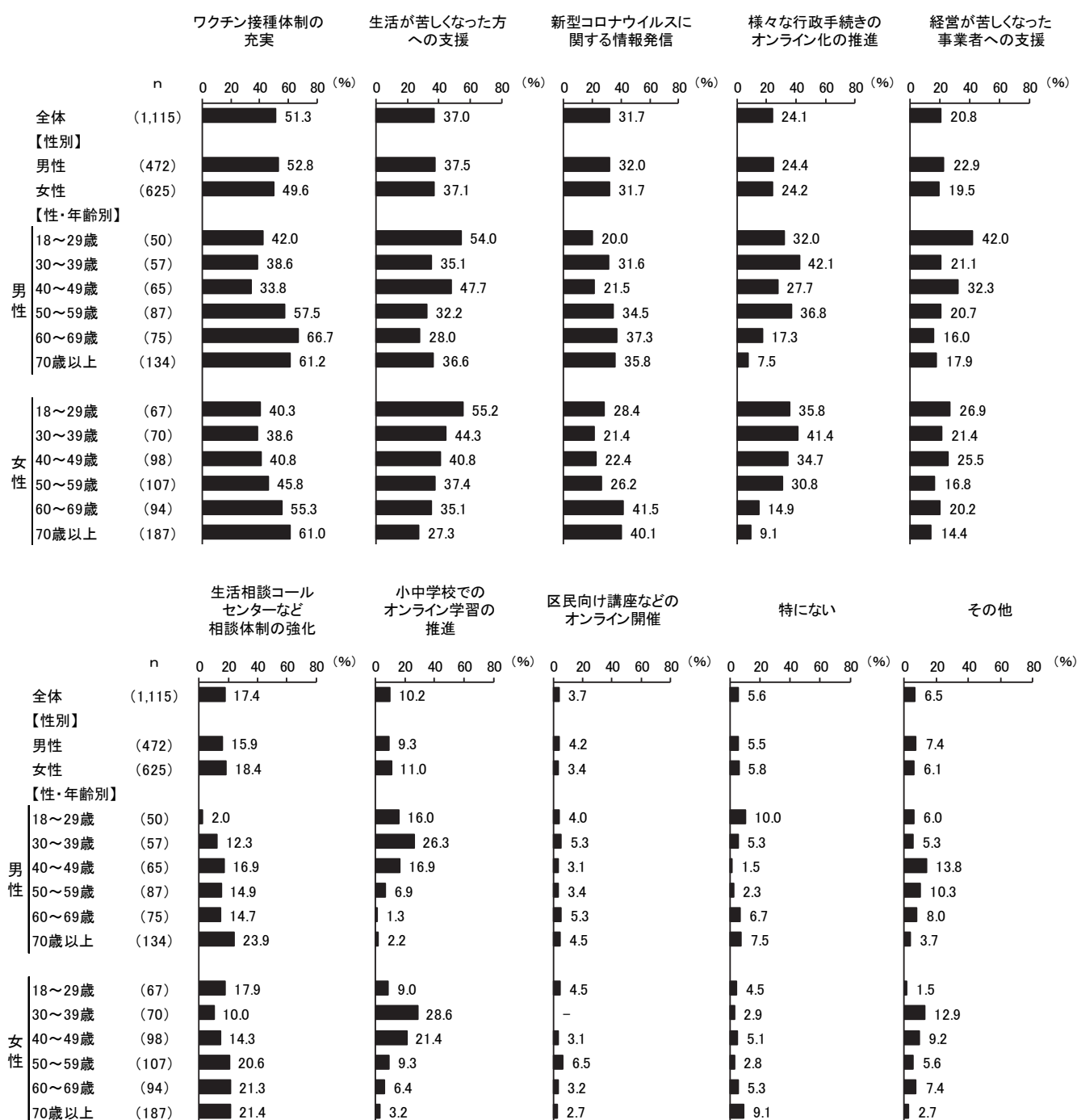
◇「ワクチン接種体制の充実」が5割を超える



新型コロナウイルス感染症に関連して区に望む取り組みを聞いたところ、「ワクチン接種体制の充実」(51.3%)が5割を超えて最も多く、次いで「生活が苦しくなった方への支援」(37.0%)、「新型コロナウイルスに関する情報発信」(31.7%)、「様々な行政手続きのオンライン化の推進」(24.1%)、「経営が苦しくなった事業者への支援」(20.8%)などの順となっている。

過去の調査と比較すると、「ワクチン接種体制の充実」は前回調査(令和3年度)より19.5ポイント、「経営が苦しくなった事業者への支援」は前回調査(令和3年度)より11.4ポイント、減少している。(図2-4-1)

図2-4-2 新型コロナウイルス感染症に関連して区に望む取り組み—性別、性・年齢別



性別にみると、男性の方が女性より「経営が苦しくなった事業者への支援」で3.4ポイント、「ワクチン接種体制の充実」で3.2ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性の方が男性より「生活相談コールセンターなど相談体制の強化」で2.5ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「ワクチン接種体制の充実」は男性60~69歳で7割近くと多くなっている。「生活が苦しくなった方への支援」は男性18~29歳、女性18~29歳で5割半ばと多くなっている。「様々な行政手続きのオンライン化の推進」は男性30~39歳、女性30~39歳で4割を超えて多くなっている。(図2-4-2)